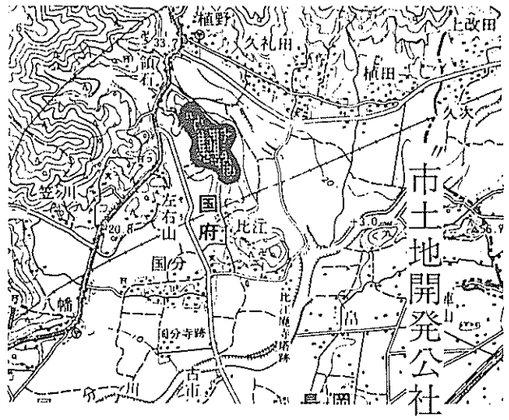
中に緊急事態

市土地開発公社の北部運動公園用地の全筆買い取りを〝農地法違反を理由に〟



四年計画で取り組んだ自主財政再建二年目で、市に緊急な事態が生じた。

十一月の臨時市議会の議員総会において、市執行部は〝市土地開発公社が公共用地として買収している北部運動公園用地を市が全筆すみやかに買い取らなければならなくなった〟と現状報告。農地法に違反するのがその理由である。

この問題については、十二月市議会定例会に提案し、今後の対策を検討することになるが、十年間分割払いの債務負担行為の方法で解決する考えをもっているものの、自主財政再建中の南国市にとって大きな問題をかかえ込んだことになる。

臨時市議会が十一月十五日に開かれ、その議員総会の席で、市執行部は『緊急に報告しなければならない事態が生じた』として、比江山にある土地開発公社の北部運動公園用地の問題について現状報告を行いました。

その現状報告によりますと、先の九月定例県議会でこの問題がとりあげられたことに端を発し、十月に農林省中四国農政局（岡山市）から県に対して、国分の比江山周辺農地の転用について、市土地開発公社が公共用地としてすでに買収している用地は全筆すみやかに南国市が買取りの業務を完了するよう、指示がありました。

その理由としては、問題の用地は市街化調整区域にあり、現状のままであると農地法の違反になるとしています。『農地転用の制限として、市土地開発公社が財産として登記できるのは市街化区域に限る』（農地法施行令第五条の二十号）とあるように、市土地開発公社が市街化調整区域である比江山の北部運動公園用地を所有している現状では、農地法の違反になることになります。

また、現在南国市は四年計画で年間一億円ずつの赤字解消のための自主再建中であるにもかかわらず、それを理由に市が市土地開発公社からの買取りを保留することは認めがたいという指示も農政局からあっています。

この問題の用地は、昭和四十七年から財団法人開発公社が買収を始め、翌年の四十八年にはスポーツ振興審議会の答申により、『スポーツの振興と市民の健康と体力づくりに努め、豊かで明るい生活の環境改善に寄与すること』を目的に県知事より市北部市民総合運動公園整備事業として事業認定をうけ、また同年の市土地開発公社発足により、市が同公社に委託して用地の買収を行ってきたもの。

ところが、石油ショックなどの経済変動により市の財政も悪化し、用地買収は中止となっていました。

市としては、市土地開発公社名義となっている用地について早急に市が引きとるべき性格のものでありますが、自主財政再建中という事情のため、延び延びになっていたものです。

市執行部としては、十一月七日県（農政課・地方課）と協議の結果、九日に土地開発公社の理事会

財政再建

欧州行政視察を終えて ③

市長　小笠原　喜郎

古都モスコーには日本人におなじみのトルストイやチェホフの旧宅が大切に保存されており、哲学者、政治家、軍人の銅像や遺跡は数えきれない程あるが我々一行の日程にはのらない。いわゆる観光的な見物に時間をかけている暇がないからである。今日はソ連の国力をわかり易く内外の人々に知らせるために造った国民経済成果博覧会場へ行き、その中の産業、科学部門を見ることになっている。

出発間際にバスの中の一行の人数が三名足りない。今度は運転手やガイドの責任ではない。添乗員がバスから降りてさがしてもわからない。十五分程たっておくれた三人が息せききってとびこんで来た。例のギーギー鳴るホテルのエレベーターが途中で止まったまま動かない。非常電話を使っても要領を得ない。そのうちやっと救出されたが同じ箱の中でとじこめられていた何人かの米国人はカンカンに怒っていたそうである。ところがホテル側では申訳ないような顔は全然見せない。この程度のことは日常茶飯事で市民の表情は変らない。

博覧会場へ着いた。二千ヘクタールの大広場に七十八のパビリオンがある。こう聞かされただけで祖国の偉大さと為政者に対する信頼感を植えつけられるかも知れない。宇宙館に入る。ソ連がその技術を世界に誇るスプートニクで天井の高い豪壮な建物に実物大の物、あるいは実物そのものを陣列してある。開発当初からドッキングまで詳しい説明もつけてある。館の中は若い人達でごった返している。そして多くの人達はかすかに嘆声をもらしながら真剣なまなざしで見入っている。次に原子力平和利用館に入る。原子力といえば悪魔の化身のように扱われがちな日本と違ってここではごく自然に原子力がいかに平和産業にも重要な役割を果しつつあるかを、そしてその将来性をわかりやすく教えている。

産業関係の多くのパビリンを割愛して、モスコー大学、植物園等へ廻ることにする。広いことには誰も驚かなくなっているが、双方に諮り、十五日臨時市議会に報告しました。買収の具体案は、十二月定例市議会に債務負担行為による予算案を提出し、市土地開発公社が所有する北部運動公園用地を次の方法により市が買収することにしています。

▼契約その他については、市議会が所要の議決を得た後とする。

▼契約金額は、昭和五十二年三月三十一日現在（以後の買収分はその時）の公社の帳簿価格に公社の定めた事務費（約一％）と借入金の利子担当額を加算した額とする。

▼買収代金の支払いは、昭和五十三年度から六十二年度までの十年間の分割払い（内据置二カ年）とする。

以上の方法がとられることになります。

なお、用地の保有面積は、約十五万七千九百平方㍍で、本年末の処分見込額（金利含む）が約十一億四千六百万円となっています。

現在、南国市は自主財政再建二年目であり、この問題が生じたことにより財政再建に大きな重荷となったわけで、この問題について臨時市議会に諮ったもの。今回は事態の報告のみを行い、資料の提出や詳細については十二月定例市議会に正式に提案されますが、北部運動公園を木材団地に売却する自主財政再建のための交渉が難航している現在、今後南国市にとって大きな問題をかかえ込んだと言えます。自主財政再建のための一つの解決方法として考えられています、市有財産売却処分が重要なキーポイントとなりそうです。

債務負担行為とは、地方公共団体が借務を負担することについて、その行為をすることのできる事項や期間および限度額を定めて、自治省令で定める様式により、予算をもって議会の議決を経る方法をいい、予算の内容を構成するものである。

とも小さい町はスッポリ入る位の広さで学生の数もさ程多くは見かけない。この大学がかたちをととのえたのは十八世紀の終り頃で図書館の蔵書二四〇万冊は自慢の一つである。学生は三万二千人いるが、日本の留学生は十二人と聞かされて少々意外であった。

今一つのモスコーの自慢は地下鉄、いわゆる地下宮殿である。駅に見るモザイクや、長いエスカレーターは当時としては画期的なものであったであろう。全線五ペイカで、乗り換え自由もよい。東京の地下鉄より車内は少し暗いようだが東京ほど新聞や週刊紙を車内で読まないので不便はないだろう。女子学生が一人目をこすりつけるようにしてコンサイスのようなものを読んでいたのと、かごにほんのわずかな野菜を入れてひざにのせていたのが印象に残っている。

建築中のアパート群や来るべきオリンピックにそなえて建設中の競技場などを見て市内を一望のうちにおさめるレーニンヶ丘で一服する。

「菊咲くと雀ヶ丘の便りなり」昭和十年頃、ひそかに入党していた友人のさらに友人がソ連に潜入し無事モスコーに着いたことを暗に私にしらせて来た便りの一節である。雀ヶ丘とはどこのことだろう。

日が傾いて寒くなって来た。ヘルシンキへ立つ時間が来た。片道六車線のレニングラード大通りを再びシエレメーチェボ空港へ走る。